

飯田女子短期大学生活福祉専攻卒業生の 就業状況と職業意識

矢澤はる美・小笠原京子

Status of Employment and Professional Sense of Graduates
in Iida Women's Junior College of the Life and Welfare Department

Harumi YAZAWA and Kyoko OGASAWARA

要旨：本研究では、本学家政学科生活福祉専攻卒業生の就業状況と、現在直面している課題を把握することを目的として、第1期生（平成13年3月卒業）から第7期生（平成20年3月卒業）までの卒業生235名のうち、卒業後介護現場に就職した者204名を対象に質問紙調査を行った。その結果卒業生95名（46.7%）から回答が得られ、全体の9割以上が介護現場に就職し、介護職として従事していることや、転職しても再び介護職に就いていること、3年以内に94.2%の人が仕事を辞めたいと思った経験があることがわかった。また、介護現場の新人研修制度はあまり整備されていないことや、多くの人が介護現場の課題を感じ大変な仕事としているが、介護に対してのやりがいや楽しさを感じている人もいることが明らかになった。

Key words：介護福祉士（care worker）、就業状況（status of employment）、介護福祉専門職（care and welfare profession）

はじめに

介護保険制度が導入されて福祉サービスを選ぶことができるようになり、介護サービス利用の拡大とともにサービスの質も求められるようになってきた。介護サービスの質の向上を支えるのが人材育成であり、それは専門職の養成と介護現場での研修によって支えられている。養成に関しては全国の介護福祉士養成施設卒業者数および国家試験合格者数共に増加しており、介護福祉士の数の確保は進んでいるとされている。介護福祉士の資格取得者数は、介護保険制度導入以降年々増加し、近年では、年間で5～6万人程度増加しており、厚生労働省発表では平成20年には約90,346人となっている。

飯田女子短期大学（以下、本学とする）家

政学科生活福祉専攻（以下、本専攻とする）は、平成12年4月に開設し、平成20年3月までに第1期生から第7期生まで、235名の卒業生を送り出した。これまで卒業生の動向についての調査を実施してこなかったもので、これまでの卒業生の就業状況と、直面している課題について報告する。

研究目的

本専攻卒業生の就業状況、職業意識の傾向と直面している課題等について明らかにすることを目的とする。

研究方法

1. 調査対象：対象者は、本専攻卒業生第1期生から第7期生までで、卒業後介護現場に就労している204名

2. 調査期間：平成20年12月1日～平成21年1月31日

3. 調査方法：無記名自記式質問紙調査（郵送法）

4. 調査内容

- 1) 卒業後の進路
- 2) 現在の就業状況
- 3) 卒業後の就業状況の変化
- 4) 退職の意向と今後の展望
- 5) 退職を考えた時期と理由
- 6) 新人研修の実施状況
- 7) 介護支援専門員資格受験の意思
- 8) 生活福祉専攻への期待

5. 質問紙の作成

質問紙は先行研究¹⁾を参考に内容を検討し、作成した。

6. 分析方法

1) 就業状況、退職に対する意識調査、新人研修、介護支援専門員資格受験の意思は、単純集計による度数分布を行い、一部クロス集計を行った。「生活福祉専攻への期待」は自由記述であるため、共同研究者で意味内容毎に、カテゴリー化した。

7. 倫理的配慮

調査目的・方法、無記名で個人が特定されないこと、研究協力の自由意志が保障されていること、及び結果は統計的に処理し調査以外には使用しないことを書面で明記した。

結 果

1. 卒業後の進路

本専攻卒業生1期生から第7期生までの235名中、卒業後に介護現場に就職し204名に対してアンケートを送付し、95名(46.7%)からの回答が得られ、「卒業後介護職についた」者は94名(98.1%)であった。「卒業後進学した」の回答者1名は、本専攻卒業後大学に編入学し、大学卒業後に介護現場に就職した者である。尚、8期生までの全進学者は5名

(1.9%)であり、在学中の2名を除き、3名は社会福祉士の国家試験に合格し、2名は介護現場で就労していることがわかっている。

2. 現在の就業状況

今回の調査では平成21年1月末現在、95名の回答者の中、介護職に従事している卒業生は83名(87.4%)であった。平成20年4月の卒業生進路状況調査(本学学生部調べ)によれば、その時点で174名(74.5%)が介護現場で介護・福祉職として就労していた。

3. 卒業後の就業状況の変化

1) 勤務先種別と勤務年数(表1)

回答者の勤務先種別と勤務年数は表1に示す通りである。今までに経験した勤務先を全て記入しているため、人数は延べ人数である。

2) 異動・退職経験

これまでに異動や自主的な退職も含めて就職先が変わった経験がある人は、95名中30名(31.6%)であり、30名の中では2ヶ所が25名(83.3%)、3ヶ所が4名(13.3%)、4ヶ所が1名(3.3%)であった。この中には、同一法人内での異動や、結婚による住所移転に伴う転職も含まれており、退職者数とは必ずしも一致しない。

最も多いのは、特別養護老人ホームが延べ54名であり、続いて介護老人保健施設が26名となっている。

近年、在宅サービスが重視されるようになっていることから、訪問介護、デイサービスセンター・デイケアセンターに就職している人も増加してきているが、その人たちはそこで働き続けている。また、転職する際に、施設から宅幼老所やグループホームを選ぶ人もいる。

4. 退職の意向と今後の展望

「現在退職を考えている」は、15名(15.8%)「現在退職を考えていない」は69名(72.6%)無回答は11名(11.6%)であった。(表2)

表1 経験職場と勤務経験年数

n = 95

勤務先の種類	勤務年数								人数 (延べ人数)
	1年未満	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	
特別養護老人ホーム	8	10	9	10	8	4	3	2	54
介護老人保健施設	4	3	4	8	5	2			26
病院・療養型医療施設		1		3		1			5
訪問介護	2	1	1	1					5
デイサービスセンター・デイケアセンター	3	2	5	1	1				12
グループホーム	4	1			1				6
宅 幼 老 所	1	1	3	1					6
養護老人ホーム	3	2	2	1			1	1	10
そ の 他									0
NA									13

表2 退職の意向

n = 95

退職の意向	人数	%
現在退職を考えている	15	15.8
現在退職を考えていない	69	72.6
NA	11	11.6

表3 「退職を考えている」理由

n = 15

	人数	%
介護職を離れたい	4	26.7
体調不良	2	13.3
結 婚	1	6.7
そ の 他	8	53.3

「退職を考えている」理由は、15名中「介護職を離れたい」が4名(26.7%)、「体調不良」が2名(13.3%)、結婚予定が1名(6.7%)、「その他」が8名(53.3%)であった。(表3)

「退職を考えていない」69名(72.6%)は、「今後どのように介護職を続けたいか」という問に対して、「責任が重くなるのは嫌なので、現場の介護職のまま続けたい」が25名(36.2%)で、「介護支援専門員等の資格をとり、いろいろな立場に挑戦していきたい」が23名(33.3%)、「介護職のまま、介護リーダーを目指したい」が8名(11.6%)、「介護職は続けたくないが、次の仕事のあてもない」が6名(8.7%)、「その他」が7名(10.2%)であっ

表4 今後どのように介護職を続けたいか

n = 69

	人数	%
責任が重くなるのは嫌なので、現場の介護職のまま続けたい	25	36.2
介護支援専門員等の資格を取り、いろいろな立場に挑戦していきたい	23	33.3
介護のリーダーを目指したい	8	11.6
介護職は続けたくないが、次の仕事のあてもない	6	8.7
そ の 他	7	10.2

表5 退職を考えたことの有無

n = 95

	人数	%
今までに仕事を辞めたいと思ったことがある	69	72.6
今までに仕事を辞めたいと思ったことがない	19	20.0
NA	7	7.4

た。(表4)

5. 退職を考えた時期と理由

「今までに仕事を辞めたいと思ったことがある」は69名(72.6%)で、「今までに仕事を辞めたいと思ったことがない」19名(20.0%)で、無回答が7名(7.4%)であった。(表5)

退職したいと思った時期については、69名中「就職して1年以内」が33名(47.8%)、「就

表6 退職を考えた時期

n = 69		
	人 数	%
就職して1年以内	33	47.8
就職して1～3年以内	32	46.4
就職して4～5年以内	2	2.9
結婚による	1	1.4
常に思っている	1	1.4

表7 退職を考えた理由(複数回答可)

n = 69	
	人 数 (延べ人数)
職場の人間関係	33
仕事がハード	35
やりがいがない	3
介護の仕事が嫌い	2
介護の仕事は続けたいが、その職場が嫌だ	20
そ の 他	17

職して1～3年以内」が32名(46.4%)であった。(表6)

また、複数回答で求めた退職を考えた理由は、延べ110名で「職場の人間関係」33名(30.0%)、「仕事がハード」35名(36.8%)、「やりがいがない」3名(3.2%)、「介護の仕事が嫌い」2名(2.1%)、「介護の仕事は続けたいが、その職場が嫌だ」20名(21.1%)、「その他」17名(17.9%)であった。(表7)

6. 新人研修の実施状況

「新人研修は充実している」と思っている者は14名(14.7%)、「新人研修は充実していない」と思っている者は45名(47.4%)、「わからない」は25名(26.3%)で、無回答は11名(11.6%)であった。

7. 介護支援専門員資格受験の意思

「介護支援専門員資格に既に合格した」は3名(3.2%)、「受験したがまだ合格していない」3名(3.2%)、「今後受験したいと思って

いる」31名(32.6%)、「今のところ受験は考えていない」40名(42.1%)、「わからない」13名(13.7%)、無回答は5名(5.3%)であった。

8. 生活福祉専攻への期待

95名の回答者の中、自由記載の記入者は61名(64.2%)、未記入者は34名(35.8%)であった。

1) 介護現場の課題(n=61名)

介護は大変な仕事11名(18.0%)、人手不足12名(19.7%)、給料が安い6名(9.8%)、きつい・ハード・3K16名(26.2%)、自分の介護ができない・辞めたいと思う7名(11.5%)、短大での勉強と現場でのギャップ6名(9.8%)、現場での課題を記入していない者が3名(4.9%)であった。

2) 肯定的な意見(n=61名)

介護は楽しい18名(29.5%)、やりがいがある19名(31.1%)、素敵な出会い・やさしい気持ちになれる7名(11.5%)であった。

3) 学校への要望・意見

- ・就職しても、すぐに辞めない人材を育ててほしい。
- ・学生と卒業生が実習以外の場所で話しやふれ合いができるとよい。気楽に話せる機会があったら両者が役に立つと思う。
- ・学生の利用者への対応の仕方・話し方をきちんと指導して欲しい。
- ・アクティビティやリハビリテーションを身につけてきてほしい。
- ・教員の現場での経験したことの話しが、今でもとても参考になる。
- ・介護に対して真剣に向き合える人たちをたくさん育ててほしい。

4) 学生へのメッセージ(n=61名)

(1) 在学中の知識・学び6名(9.8%)

- ・在学中の技術・講義などがとても勉強になる。
- ・医学的な知識など、もっと勉強しておけばよかった。

- ・学生のうちにいろいろな話を聞き、介護に対する考えをより深めてもらいたい。学生時代に聞いた教えが、今に影響している。
- ・利用者のことを第一に考え、自己決定ができるような声かけ等を勉強してきてほしい。
- (2) 社会性 5 名 (8.2%)
- ・行儀や言葉遣いなど社会性を身につけてほしい。
- ・入社してすぐに赤ちゃんを作らないようにしてほしい。
- ・就職して半年以上経っても学生気分で働いてもらっては困る。最近の卒業生を見ると、同じ卒業生として恥ずかしいこともある。
- (3) 後輩への期待 17 名 (27.9%)
- ・介護現場へ一人でも多くの人が出てくれることを期待している。介護職へ就くことを勧める。
- ・実習で学んだことを活かしてがんばってほしい。
- ・短大生活をエンジョイしながら、楽しくマイペースでがんばってほしい。しかし、介護の仕事が向いていない、無理だと思ったときは、いろいろな職を経験してみる、挑戦してみて広い視野も持って考えてみることも必要である。
- ・介護の仕事を本当にやりたいと思っている人が、長く働き続けることができる環境を目指して、一緒に変えてほしい。
- (4) 介護への思い 3 名 (4.9%)
- ・介護についての思い、「なぜ私は介護を選んだのか」「私にとっての介護とは」このような内容を 2 年間でとことん自分自身になげかけてみて、多少のことではゆるがない心をつかんでもらいたい。
- ・後輩には焦らず、諦めず、信じる介護を貫いてほしい。
- ・これからどんな介護がいいのか考えながら働いていきたい。常に初心を大事に、研修など自分の介護を高めることが大事である。

(5) その他

- ・自分の体は大切にしてもらいたい。

考 察

1. 現在の就業状況について

回答があった卒業生の87.4%が現在も介護・福祉職に従事しており、毎年卒業時に把握している卒業生の進路調査では、卒業生名中235名中204名(86.8%)が介護現場に就職していた。また、4年制大学に進学した学生も、社会福祉士と介護福祉士という2つの国家資格をもって介護現場で就労していることから、人材不足等で厳しい現実を抱えている介護現場であっても、介護福祉士としてがんばっていかうという卒業生の姿が浮かび上がってくる。

2. 現在の就業状況

平成20年4月の卒業生進路状況調査(本学学生部調べ)では、介護現場に就職した卒業生204名中1年以内に離職した卒業生は5名(2.4%)である。平成19年度介護労働の実態調査によれば、1年間に離職した全国の介護職員の割合(離職率)は全体の20.3%(36,132人)を占めると報告されている。本専攻の離職率は、全国平均の10分の1であることから、本専攻の卒業生は、辞めずに介護現場で就労し続けている人が多いといえる。

3. 卒業後の就業状況の変化

新卒時は、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設への就職者が最も多い。学生時代には学外実習の多くを施設で体験するため、施設介護の体験を積んで、そこから志望の動機が明確になるケースが多い。また、近年施設からの求人も圧倒的に多く、新卒介護職の基本給等も上昇してきていることが影響していると考えられる。しかし、施設の介護は流れ作業になりやすいという現実と、個別性の高い介護を提供したいという思いのギャップに悩み、もっとゆっくり、その人のペースに合

わせた介護がしたいという思いから、小規模な宅幼老所やグループホームに転職しているケースもある。

一方、生活相談員や介護リーダーに抜擢される人も出てきており、地道に努力してきたことが、単なる一介護職員としてではなく、チームのリーダーとしての役割を担うようになってきていることは、地域の介護職リーダーの育成を目指してきた本専攻の成果ともいえる。

4. 退職の意向と今後の課題

現在介護職に就いている人の中で、15.8%が退職を考えており、その理由は「介護職を離れたい」「体調不良」と続く。退職の意向を持っている人は比較的少ないが、「介護職を離れたい」と考えている人は勤務年数1年以内が多く、4～5年以内の勤務者は結婚、出産予定による退職希望であることから、介護職について現実とのギャップを感じ、自分の適正について悩むのは1～3年以内が多いと考えられる。

退職を考えてはいないが、責任が重くなるのは嫌だという人が36.2%で、専門職として国家資格を取得しているにも拘らず、上昇志向のない人もいる。今回の調査では、対象の属性を年齢や卒業期で分類しておらず、勤務年数と意識の対比をしていないため、分析に限界がある。しかし、介護リーダーまでやりたいと思っている人は、11.6%しかいない。個人レベルの実践には限界があり、チームとしての能力開発や研修を率先してリードしていくことが必要であるが、自分がその役割を果たそうという人は少ないと考えられる。

一方、介護支援専門員等の資格をとり、いろいろな立場に挑戦していきたい人は33.3%おり、必ずしも意欲的でないというわけではない。

5. 退職を考えた時期と理由

7割の人が仕事を辞めたいと思った経験が

あり、その時期は1年以内、1～3年以内を合わせて、辞めたいと思った人の94.2%であり、3年を過ぎると比較的辞めたいと思わなくなるのではないかと考えられる。

仕事を辞めたいと思う理由は、職場の人間関係と仕事がハードであるという理由がそれぞれ3割を占めている。介護現場職員の非正規化が進む一方で、利用者の生活ニーズに応えるために、複雑な変則勤務体制の施設が増え、非正規職員が日勤業務を行い、介護福祉士資格のある正規職員は、負担の大きい早番、遅番、夜勤といった変則勤務を中心にシフトが組まれることが多くなっている。そのため、生活が不規則になり、体調不良等の不安が大きくなっていることが考えられる。

6. 新人研修の実施状況

新人研修は充実していると答えた人は95名中14名(14.7%)であり、介護現場の新人研修は必ずしも充実しているとはいえない。採用後、一人の介護職として自立するまでには、いくつかのハードルがある。学外実習での経験は、あくまでも経験であり、即戦力としての実践を身につけて卒業するわけではない。ところが、介護現場では、ヘルパー2級資格や無資格者も雇用しており、介護業務は単純労働であるという誤解が蔓延していると考えられる。そのため、2年間学び、国家資格である介護福祉士資格を取得してきた養成校出身者は、即戦力として見なされやすい。ところが、現実是个別のニーズの違いや、チームとしての見解不在のまま、それぞれが自己流の介護実践をしていたりするため、新卒者は非常に戸惑うことが多い。全国の離職者が多いのも、この事に起因すると考える。

一方、採用した介護現場の現実から考えると、研修制度自体が未整備の中、人材不足で職員の入れ替えが常であり、目の前の介護に追われているため、自ら研修体制を組み、計画的に実施していくことが可能である事業所

は少ない。そこで、平成21年度、厚生労働省は現場の研修制度を充実させるために「キャリアアップ研修事業」や「訪問研修支援事業」等に予算を付けて、各県を窓口として募集をかけている。本学も、それらの事業に参加し公募したところ、県内各地から申し込みがあった。このことから、現場は研修の必要性を認識しつつも、事業所単位では限界があるということが推察できる。

7. 介護支援専門員資格受験の意思

回答者中 3 名 (3.2%) が介護支援専門員資格合格したとしていた。受験したがまだ合格していない人や、今後受験したいと思っているも多くいることから、卒業生へのキャリアアップ支援として、今後は介護支援専門員資格に対する受験対策支援が必要であると考えられる。実務経験を 5 年経ると、介護支援専門員の受験資格を得ることができるので、今後希望者は増加することが予想される。

平成21年 4 月より、介護福祉士の養成カリキュラムが新しくなり、人間の尊厳を守る介護、在宅介護の重視、あるいは専門性の高い教育内容が求められてきているので、学生に対する教育内容にも、ケアマネジメントに関わる教育、介護過程に関わる教育等、目の前の介護行為としての技術に留まらない、介護福祉としての授業を検討していかなければならない。

8. 生活福祉専攻への期待

卒業して実際に介護現場に就き、学生の時に学んだ知識や実習とのギャップを感じている。また社会において、きつい、ハード、給料が安いなど 3 Kといわれる介護現場で人手不足、大変な仕事などで自分の思う介護ができないと感じ、辞めたいと思った卒業生も多い。

しかし実際に利用者への介護を経験していく中で、介護福祉の仕事は楽しい、やりがい

があると感じる経験をしている。また、利用者や職員との素敵な出会いがあり、やさしい気持ちになるなど介護に対して肯定的な意見もある。

現場での厳しい環境の中、これから育ってくる後輩たちへの期待は大きい。人材の確保ばかりでなく、一緒に介護現場を変えていきたいという思いが感じられる。介護現場を変革していくためには、人的環境、物的環境を変えていかなければならないが、まずは介護する側の課題に対しての記述が多い。質の高い介護を継続し、学校で学んだ知識や介護への思いを、自分のものにして現場に出てきてほしいとか、実際に実習等で学んだ介護への思いを大切にしてほしいというメッセージに表現されている。

学校に対しての意見の中には、すぐに辞めない人材を育ててほしいとある。これも卒業生の後輩への思いであり、介護現場において同じ思いを持つ仲間を増やしたいという希望が感じられる。これらに応えるためには、授業の中での介護の知識と技術、また実習においての体験から学ぶ経験の実証づけが重要であり、教員の介護観が与える影響も大きいといえる。また、接遇などの課題については、社会人を送り出すための教育も、これからは重要な課題として捉えることができる。

卒業生からの期待は、一緒に介護をして行きたいという意見が多い。同じ学び舎から育つ学生に対して、卒業生の想いを伝える機会をもち、本学の卒業生が介護現場においても連携を強めていけるよう、卒後教育の支援も必要であると考えられる。

結 論

本専攻卒業生を対象とした調査から以下のことが明らかになった。

1. 全体の 9 割以上が介護現場に就職し、主に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム等の高齢者施設で介護職と

して従事している人が多い。

2. 職場内の異動を含めた退職や転職のある人は31.6%であるが、転職をする場合も介護職に就く人が多い。
3. 7割の人が仕事を辞めたいと思った経験があり、その時期は3年以内が94.2%で、3年を過ぎると比較的辞めたいと思わなくなるのではないかと考えられる。
4. 仕事を辞めたいと思う理由は、職場の人間関係と仕事がハードであるという理由がそれぞれ3割を占めている。
5. 介護支援専門員等の次の資格を取り、介護リーダーを目指したい人と、今のまま介護職員でいたいという人の割合はほぼ同じである。
6. 介護現場の新人研修制度はあまり整備されていない。
7. 多くの人が介護現場の課題を感じ大変な仕事としているが、介護に対してのやりがいや楽しさを感じている人もいる。
8. 卒業生の中には、在学生在が介護職へ就き、同じ介護に携わることへの期待が高い。

おわりに

本学卒業生の介護現場における意識は、介護福祉への思いが持続している傾向にあり、後輩にも介護職を選択してほしいという思いが強いと考えられる。このことは、人材不足といわれている介護現場において、本専攻の卒業生が重要な役割を果たしているといえる。

一方、介護現場の非正規化が進む一方で、利用者の生活ニーズに応えるために、複雑な変則勤務体制の施設が増え、非正規職員が日勤業務を行い、介護福祉士資格のある正規職

員は、負担の大きい早番、遅番、夜勤といった変則勤務を中心にシフトが組まれていることが多くなっている。そのため、生活が不規則になり、体調不良等の不安が大きくなっていることが考えられる。

また、応用力が求められる介護現場において、新人期に期待される職務の多さから、離職を考えてしまうことも予想される。

今後は、介護福祉士養成カリキュラムの改正に伴う授業内容の充実と、卒後教育及び介護現場の新人研修を充実させることが、離職者減少につながり、介護現場の質の向上に寄与するのではないかと考える。

本研究の限界は、アンケートの属性を把握しなかったことと、実態調査を中心に置いたために、退職に関する項目が中心であったことから、その結果に偏りがあったことは否定できない。しかし、本専攻初めての動向調査として、卒業生の一定の動向を把握することができた。今後は、更に調査研究を進めて、本専攻の取り組みが地域の介護の質の向上に繋がることを目指したい。

謝 辞

今回の調査にご協力いただいた卒業生の皆様に深謝いたします。

注

- 1) 財団法人介護労働安定センター：介護労働者のストレスに関する調査報告書。東京，2006，pp.101-108.
- 2) 介護労働安定センター：データーからみる介護労働の実際。月刊総合ケア17(5)，19-20，2007.

生活福祉専攻卒業生の卒後の動向に関する アンケートのご協力をお願い

今年も残すところ後わずかとなりました。皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。

さて、飯田女子短期大学家政学科生活福祉専攻がスタートして、早9年がたち、この春第8期生を送り出します。卒業生の皆さまには、職場や家庭でそれぞれご活躍のことと思います。

今、介護職は人気が低迷しており、そのあおりを受けて、生活福祉専攻も定員割れを避けられない状況になってきております。しかし、皆さんもご承知の通り、介護現場には魅力的なこともたくさんあり、頑張っている卒業生も大勢いることも事実です。

この時代の流れに負けることなく、私達は、介護のおもしろさ、そして素晴らしい仕事であることを誇りに思って、地道に頑張りたいと思います。

そこで、卒業生の皆さまの思いやご意見を伺い、アンケート調査を基に、これからの教育活動に活かしていきたいと思っております。

アンケートは匿名で行い、結果は統計処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また協力は自由であり、結果は、本研究にのみ使用し、それ以外の目的では使用いたしません。

つきましては、お忙しい中大変申し訳ありませんが、**1月15日まで**にご回答いただき、返信用封筒に入れて投函していただきますようお願い申し上げます。

お忙しい中お手数をおかけいたしますが、何卒ご協力をお願いいたします。また、本アンケート用紙の記入・提出をもって、調査への参加の同意とさせていただきます。

この調査に関して、ご質問・ご意見がありましたら、小笠原までご連絡ください。

平成20年12月24日

飯田市松尾代田610

飯田女子短期大学 家政学科生活福祉専攻

矢 澤 はる美

小笠原 京 子

TEL 0265-22-0070 (183#)

FAX 0265-22-4416 (研究室)

ogasawar@iidawjc.ac.jp

生活福祉専攻卒業生の卒後の動向に関するアンケート

下記の問に対して、当てはまるもの一つを選んで番号に○をつけてください。

1 短大卒業後介護職に就きましたか。

- ① は い ② いいえ ③ 進 学（進学の方で現在介護職の方は問2へ）

2 現在も介護職として勤務していますか。

- ① は い ② いいえ

* 2で「はい」と回答された方にお聞きします。

3 現在までの事業所の種類・勤務年数・職種を教えてください。今までに転職した方は古い順に、複数記入してください。勤務月数は四捨五入してください。

- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| ① 特別養護老人ホーム | ⑥ グループホーム |
| ② 介護老人保健施設 | ⑦ 宅幼老所 |
| ③ 病院・療養型医療施設 | ⑧ そ の 他（ ） |
| ④ 訪問介護 | |
| ⑤ デイサービスセンター・デイケアセンター | |

〈記入例〉 1 (①) (2) 年

2 (①) (2) 年

3 (⑤) (1) 年

1 () () 年

2 () () 年

3 () () 年

4 () () 年

4 現在、退職を考えていますか。

- ① は い ② いいえ

4-1 4で「はい」と答えた方はその理由はなんですか？

- ① 結婚予定
- ② 介護職を離れたい
- ③ 体調不良
- ④ その他()

4-2 4で「いいえ」と答えた方は、今後どのように介護職を続けたいですか？

- ① 介護支援専門員（ケアマネジャー）等の資格をとり、いろいろな立場に挑戦していきたい
- ② 介護職のまま、介護のリーダーを目指したい
- ③ 責任が重くなるのは嫌なので、現場の介護職のまま続けたい
- ④ 介護職は続けたくはないが、次の仕事のあてもない
- ⑤ その他()

5 今までに仕事を辞めたいと思ったことはありますか。

- ① はい ② いいえ

5-1 5で「はい」と答えた方は、それはいつですか。

- ① 就職して1年以内
- ② 就職して3年以内
- ③ 就職して()年頃
- ④ その他()

5-2 5で「はい」と答えたその理由は何ですか（複数回答可）

- ① 職場の人間関係
- ② 仕事がハード
- ③ やりがいががない
- ④ 介護の仕事が嫌い
- ⑤ 介護の仕事は続けたいが、その職場が嫌だ
- ⑥ その他()

